

act 16

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館
アクト

March 2014

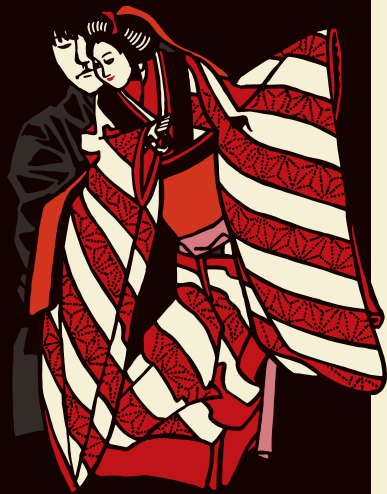


Joruri puppet theatre



[人形浄瑠璃]

心の形。世の形。 人形が伝える 日本の伝統美。



人形劇、といえば世界中どこにでもあるもの。マリオネットのような糸操り、影絵、棒で操るものなどさまざまですが、日本の伝統芸能である「人形浄瑠璃」は、かなり特徴のある人形劇です。一つは、三業という太夫、三味線、人形の三つから成り立つ人形劇だということ。しかも、この三業、公演前に一度ほどしか合わせることはないそう。もう一つは3人で一つの人形を動かす三人遣いということ。操作するには熟練の技が必要ですが、精巧な動きで人の心の些細

な部分まで表現することが出来ます。三つ目は、内容が大人向けだということ。武将が活躍する作品もありますが、いっぽうで民衆の生活や恋愛、義理人情を写し取った作品が、人形浄瑠璃の醍醐味です。300年余りも長い歴史を持ち、演じ続けられてきた人形浄瑠璃。現代にも通じる人の心情と世の流れが、浄瑠璃と人形によって美しく描かれていきます。見どころ・聴きどころたっぷり、日本ならではの伝統芸能の入り口をご紹介します。

人形浄瑠璃 三業の仕事

三業とは太夫・三味線・人形遣いのこと。この3つの仕事が絶妙にからみあい、ライブ感たっぷりの人形浄瑠璃をつくりあげている。

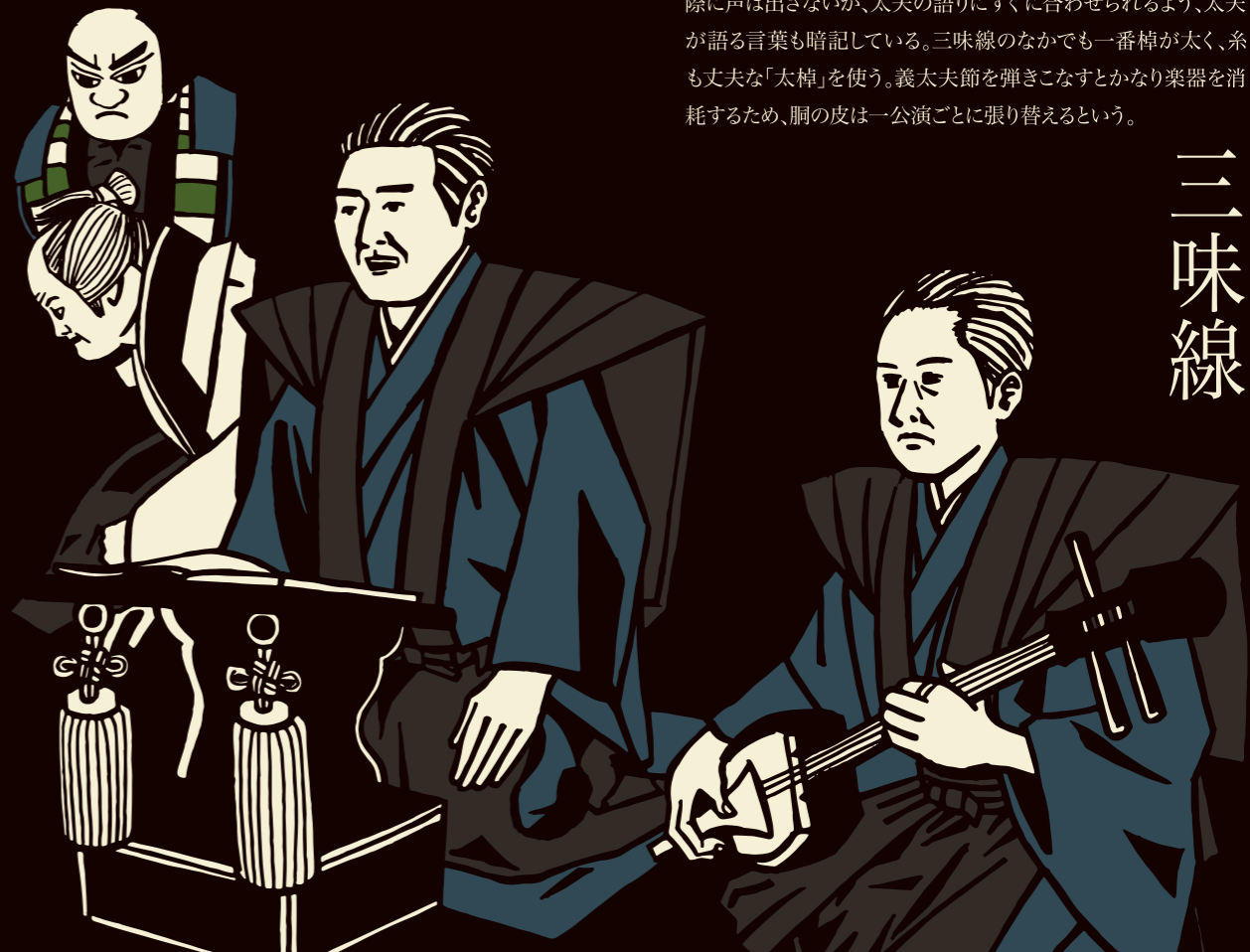
人形浄瑠璃は世界の人形劇のなかでも珍しい、三人遣い。一体の人形を、主遣い(おもづかい)(頭と右手)・左遣い(左手)・足遣い(両足)の3人で操る。3つの部位がシンクロするように操るのには技術と修練が必要だが、そのぶん細やかな感情表現が可能。リアルな動きと人形ならではのスペクタクルで魅了する。

人形遣い



太夫

物語や登場人物のセリフを語る、いわばストーリーテラー。つい人形にばかり目がいってしまいがちだが、実は太夫は人形浄瑠璃の要で、指揮者のような存在。義太夫節という節回しで情感たっぷりに語り、いくつもの役柄を一人で演じる。もちろんマイクなどを使わない。長い演目は太夫が交代で行う。



三味線

太夫と対になり、情景や喜怒哀楽を三味線一本で表現する。実際に声は出さないが、太夫の語りにすぐに合わせられるよう、太夫が語る言葉も暗記している。三味線のなかでも一番棹が太く、糸も丈夫な「太棹」を使う。義太夫節を弾きこなすとかかなり楽器を消耗するため、胴の皮は一公演ごとに張り替えるという。

